

令和5年度 各校の働き方改革の取組

各学校園から、令和5年度の働き方改革の取組について、報告していただきました。ご協力ありがとうございました。報告をもとに、今年度の取組の状況をお知らせします。今年度取り組む学校が増えた2つの取組について、各校の声を紹介します。

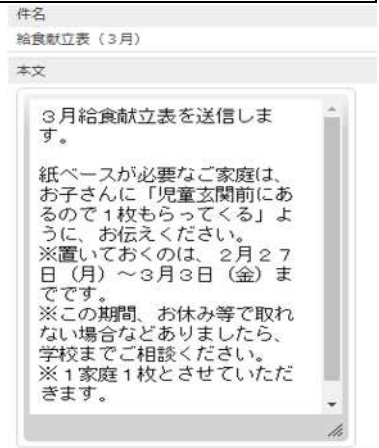
1 家庭への配付文書のデジタル化★

実施校数 (実施率)	R4 93校 (52.8%)	→	R5 129校 (73.3%)	(+36校)
---------------	-------------------	---	--------------------	--------

チャレンジ360第1号で紹介した、家庭への配付文書のデジタル化について、今年度から新たに36校が取り組みます。

- 給食の献立表、図書館だより、保健だよりなどから始めて、徐々に広がっていきます。

- 月1回、定期的に配付していた学年便りは、必要な時のみ配付します。これまで学年便りに載せていた月予定は、学校でまとめた予定をPDFにしてメールで配付します。
- 「下校時刻のお知らせ」はメール配信にします。
- コンクールの応募の便りはデジタルで配付し、応募希望者が児童玄関前の配付物コーナーから取っていくシステムを定着させます。



2 遅刻・欠席連絡のデジタル化★

実施校数 (実施率)	R4 84校 (47.7%)	→	R5 108校 (61.4%)	(+24校)
---------------	-------------------	---	--------------------	--------

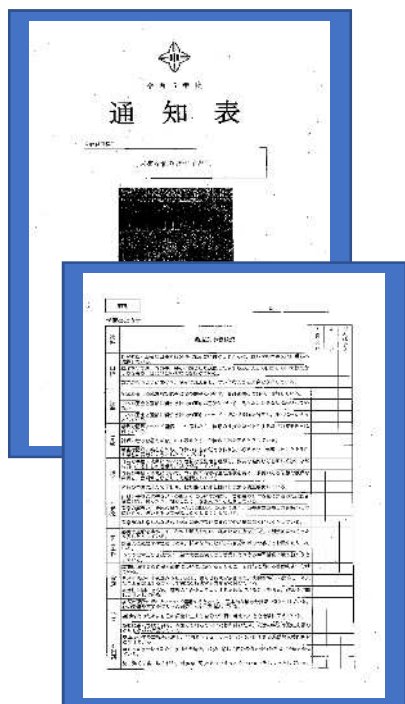
同じくチャレンジ360第1号で紹介した、遅刻・欠席連絡のデジタル化は、今年度から新たに24校が取り組みます。

- これまでは電話連絡か欠席届を提出する方法であったため、朝の教職員同士の連絡や確認のための保護者連絡が非常に煩雑であった。職員室と教室の行き来の時間も削減できる。
- 遅刻・欠席連絡をデジタル化したことにより朝の業務に余裕が生まれ、対応ミスが減っています。
- 学級担任は教室で端末を使って出欠席を確認し、未報告の児童をインターホンで教務室に連絡。級外が保護者に電話連絡。



上記の2つ以外に、中学校では「部活動の見直し」に取り組む学校が増えています。部活動の地域移行を視野に、活動終了時刻を早めた学校や、土日の部活動を原則実施しないこととした学校があります。

★五十嵐小学校の取組★



チャレンジ360でご報告いただいた取組について、五十嵐小学校からお話しをお聞きしました。実現に至る手順等、とても参考になりました。

取組例1 前期通知表の所見の廃止

Q 所見を廃止したのはいつですか。

令和3年度の前期通知表からです。

Q 廃止した所見の項目は。

すべての所見の項目です。全学年で所見は一つもありません。

Q どういう経緯で廃止することになったのですか。

前年度(R2)の働き方改革校内ワーキングの時に意見が出ました。10月の個人懇談会で丁寧に保護者に説明することで、前期の所見は割愛できるのでは、という判断となりました。

Q 保護者へはどのように説明しましたか。

令和3年の6月に、PTA会長に話しました。会長は学校に協力的な方で、賛同してくださいました。その後、PTA総務委員会で説明しました。「所見を無くします」だけで同意を得るのは難しいので、「所見ではなく、10月の懇談会で、学習や生活の様子を詳しく保護者のみなさんにお話しします。」と説明しました。

Q 廃止したことで、教職員の負担は軽減されましたか。

学期末に、かなりの余裕が生まれました。同時に担任印も廃止し、回収もやめたので、提出の点検や未提出者への催促といった負担も無くなりました。

Q 児童や保護者の反応は。

否定的な意見は特に聞こえてきません。学級担任には、所見が無くても、子どもたちに通知表を渡す時に一言ずつ添えて渡すよう伝えています。また、保護者からは、懇談会でしっかり話が聞けてよかった、という声を聞いています。

取組例2 地域ボランティアによる休憩時間等の見守り

Q 今年度から新たに取組んでいることは。

地域ボランティアの方から、学校に入っているだいています。具体的には、教室から飛び出し、時には校地外まで勝手に出てしまう児童に対し、声掛けやスキンシップにより愛情を注いでもらう取組です。

Q 取組を始めたきっかけは。

上記の状況に担任が苦戦していましたし、校内の人員だけでの対応に限界を感じていました。地域教育コーディネーターを通して、コミ協の組織である「ふうせんクラブ(子育てサロン)」に協力を依頼しました。

Q 何人くらい来てくださっているのですか。

最初は2名の方が来てくださいました。教員や保育士の経験をお持ちの方です。

Q 今後の予定は。

CS委員を通して五十嵐地区民児協から主任児童委員2名が新たに加わり、計4名の方から休み時間に児童の見守りをしていただくことになりました。民児協としても、子どもの様子を観察したり、関係性を築いたりしていく貴重な機会になると捉えているようです。

